


 今年のインフルエンザワクチンはどのように受ければいいでしょう?	1ページ
 今月のイチオシ図書／今月の植物を探せ! vol.6／募集案内	2ページ
 糖尿病ワンポイントアドバイス／「糖尿病教室10月」のお知らせ	3ページ
 外来からのお知らせ／アレルギー教室のクッキング／外来診察のご案内	4ページ

今年のインフルエンザワクチンは どのように受ければいいでしょう?

現在、新型インフルエンザウイルス(新H1N1_2009ウイルス)の感染者数がジワジワと増加していますが、まだ大流行(パンデミック)とはいえないレベルです。パンデミック期のピーク時には、現在の感染者数の10～20倍の人がインフルエンザを発症します。

インフルエンザ発症の予防対策として、人混みの中に行く回数を減らす、15秒間以上の流水による手洗い、ワクチンなどが有効です。さて、今年のインフルエンザワクチンはどのように受けたいでしょう?

今年の北半球の冬のシーズン(09/10シーズン)には、現在流行っている新H1N1_2009ウイルスとA香港型ウイルス(H3N2)が流行すると予測されています。この二種類のインフルエンザを予防するためには、毎年接種しているワクチン(季節性インフルエンザワクチン:A香港型ウイルス、Aソ連型ウイルス、B型ウイルスが含まれる)に加え、新H1N1_2009ウイルスワクチンの接種が必要です。一種類のワクチンで、A香港型ウイルスと新H1N1_2009ウイルスの予防は不可能です。季節性インフルエンザワクチンは10月の始めから接種でき、新H1N1_2009ウイルスワクチンは、10月の末から対象者を絞って接種が始まります。

インフルエンザにかかると重くなる人(ハイリスク者:妊婦、乳幼児、高齢者、慢性呼吸器疾患を持っている人、糖尿病の人、神経疾患の人、重症心身障害のある人など)は、季節性インフルエンザワクチンの接種が勧められる人ですし、新H1N1_2009ウイルスワクチン接種も勧められています。医療従事者も両方のワクチン接種が勧められる集団です。

オーストラリアや欧米の新H1N1_2009ウイルスワ

クチンの研究結果を見ますと、20歳以上の人達では、どちらのワクチンも1回接種で十分なようです。オーストラリアでは10歳以上の人達を対象に、新H1N1ウイルスワクチンの1回接種が9月30日から始まりました。日本では、13歳以上の人達は、先ず10月中に季節性インフルエンザワクチンの接種を1回受け、その後新H1N1_2009ウイルスワクチンの対象者に該当したときは、新H1N1_2009インフルエンザワクチンを1回受けて下さい。

9歳未満の子どもはどうしましょう? オーストラリアも欧米も研究結果が出てくるのを待っています。いずれのワクチンも2回受けるとなると、合計4回受ける必要があります。病院に連れてくるだけでも大変です。季節性インフルエンザワクチンと新H1N1_2009ウイルスワクチンを右手と左手の両方に一度に接種すること(同時接種)も可能です。ハイリスクの人達は、新H1N1_2009ウイルスワクチンを先ず受けて、その後季節性インフルエンザワクチンを受けてもOKです。

2回受けるときの接種間隔は、少なくとも1週間、三重病院では効果的な免疫(抵抗力)を誘導するために、3～4週間隔で2回接種を行っています。同時接種が嫌な方は、先ず季節性インフルエンザワクチンを3～4週間隔で2回接種し、次いで新H1N1_2009ウイルスワクチンを同じく3～4週間隔で2回接種することになります。もし忘れたとき、熱を出して受けられなかったときは、思い出したとき、熱が下がって落ち着いたときに、受けられなかったワクチンを受けて下さい。主治医に相談して下さい。

